

動物用医薬品

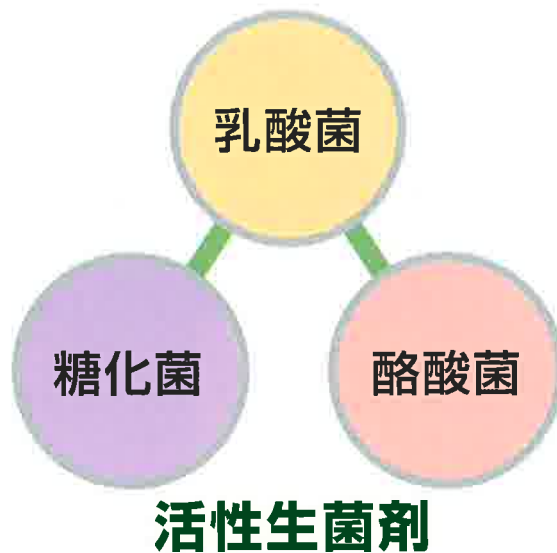
動物用 **ビオスリー**®



Bio Three FOR ANIMAL

3種生菌配合

TOA PHARMACEUTICAL CO.,LTD.



家畜の疾病を防ぎ、特に仔豚・仔牛の下痢を予防し、栄養吸収を良好にし成長を促進すること及び成畜のストレスを防止することは生産性向上と共に畜産経営の安定、健全化にとって重要な課題であります。

動物用ビオスリーは3種の優秀な活性菌により、過食や腸疾患及び腸内有効菌の消失などにより起こる様々な腸疾患に対し、速やかにしかも副作用なく効果を示す優れた整腸・消化剤です。

特 長

- 1 本剤は三種類の強力・有効な活性生菌の協力作用により、乳酸、酪酸及び各種酵素を旺盛に産出します。
- 2 乳酸及び酪酸は腸内の酸度を高め、有害細菌の発育を強力に阻止します。
- 3 各種酵素は飼料の消化吸収を助け、飼料の有効利用を促します。
- 4 動物の健康に大きな影響を及ぼす腸内菌叢が各種ストレス、動物の生理、薬物などの要因によって変動した場合、速やかな正常細菌叢への回復を促進します。
- 5 本剤に含まれる三種類の活性生菌は動物体への安全性が高く、消化管から吸収されず血液中に移行することはありません。

乳酸菌 *Streptococcus faecalis* T-110の 抗病原菌現象について



《写真説明》

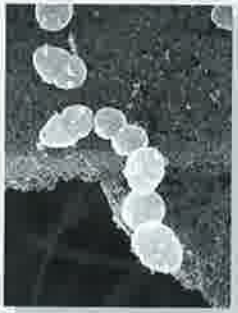
写真中央のタテに成育している集落(コロニー)が乳酸菌であります。

横の集落は写真上からチフス菌・大腸菌・緑膿菌・ブドウ球菌・レイ菌の病原菌で乳酸菌のすぐ近くまで生育していますが、乳酸菌の近辺においては、各病原菌とも生育が抑制されていることが観察されます。これは乳酸菌の産生する抗菌活性が働いていることを証明しています。

このように*Streptococcus faecalis* T-110は、各種の病原細菌に対して強力な抗菌作用を有しております。

薬理作用

乳酸菌



(Streptococcus faecalis T-110)

乳酸菌の種類は多種多様に存在しますが、Streptococcus faecalis T-110は家畜の腸内において旺盛に繁殖しやすい乳酸菌であります。pH4.0~9.6において発育します。本菌は酪酸菌・糖化菌との共生作用で、活発に増殖して乳酸を産出し、腸内のpHを低下させ、有害菌の増殖を抑制します。(図1.図2)

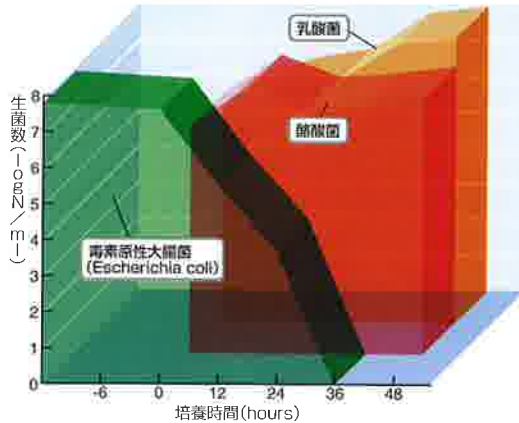


図1. 乳酸菌・酪酸菌と毒素原性大腸菌の混合培養

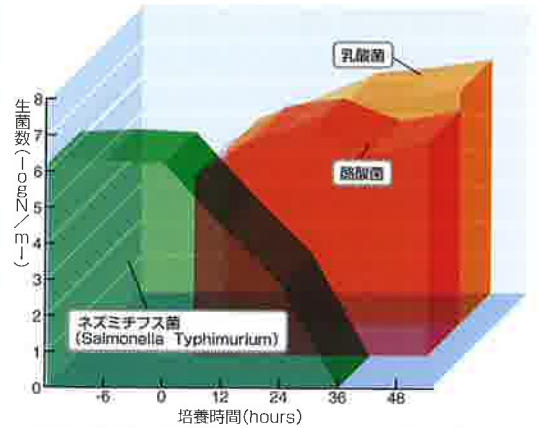


図2. 乳酸菌・酪酸菌とネズミチフス菌の混合培養

酪酸菌



(Clostridium butyricum TO-A)

酪酸菌は芽胞を形成し、耐熱性・耐乾性・耐薬品性にすぐれ、分裂増殖後、酪酸を産生し有害菌の発育を阻止します。また、炭酸ガスを発生して腸の蠕動を促進します。本菌は、でんぷん糖化酵素(Amylase)、蛋白分解酵素(Protease)、乳糖分解酵素(Lactase)等の各種酵素を産生します。さらに腸内乳酸菌との間で共生作用を示し、それぞれ単独の場合よりも大幅に増殖します。(図3)

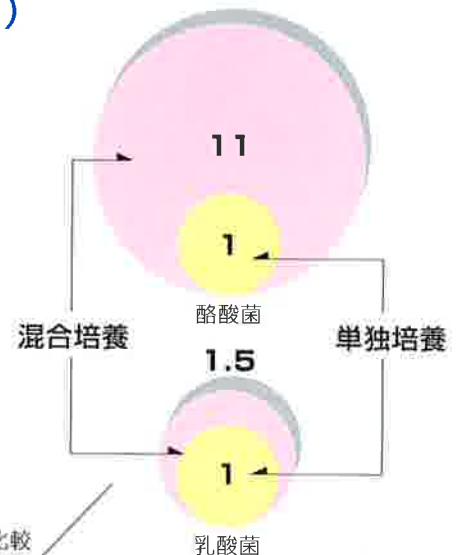


図3 乳酸菌及び酪酸菌の単独培養と混合培養における菌数の比較

糖化菌



(Bacillus mesentericus TO-A)

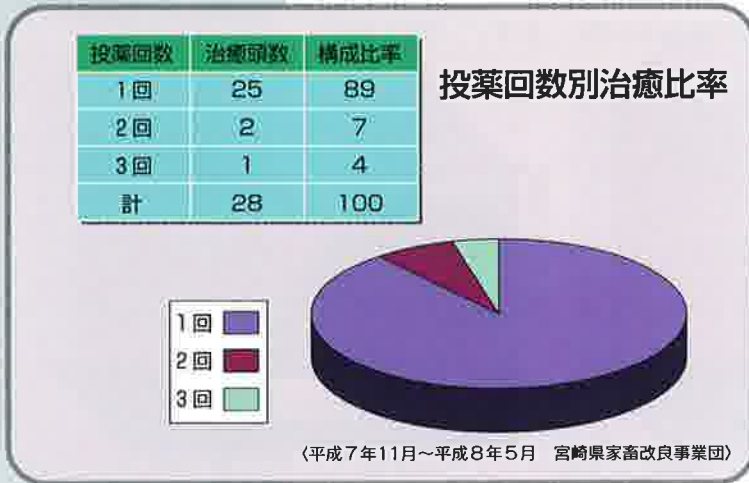
Bacillus mesentericus TO-AはBacillus subtilisの一種で、芽胞を形成し、耐酸性、耐熱性、耐薬品性にすぐれ分裂増殖後、でんぷん糖化酵素(Amylase)を旺盛に産生します。また蛋白分解酵素(Protease)とペクチン分解酵素(Pectinase)も産生します。以上のことから本菌は、腸内乳酸菌増殖のエネルギー源として必須の菌種であることがわかります。乳酸菌は単独培養に比べ糖化菌培養濾液を添加すると約10倍の増殖を示します。(図4)



図4 糖化菌培養濾液を添加した場合の乳酸菌増殖の様子(デンプン培地)

■導入和牛の単純性下痢症に対する動物用ビオスリーの効果

肥育和牛導入(約10ヶ月令、体重280~300kg)時に、頻繁に水様性下痢を呈していた28頭に、動物用ビオスリー90g/頭/日を、水に溶かして強制経口投与し、1回~3回で全頭が治癒した。



■成分

本品1g中
 ラクトミン(乳酸菌)(Streptococcus faecalis T-110)
 20mg (7×10^6 個以上)
 酪酸菌 (Clostridium butyricum TO-A)
 20mg (2×10^5 個以上)
 糖化菌 (Bacillus mesentericus TO-A)
 20mg (3×10^5 個以上)

■用法・用量

成牛・成馬 : 1回50~200g
 子牛・子馬・成中豚 : 1回20~50g
 子豚・犬・猫・鶏 : 1回1~3g
 上記量を1日3~4回投与する。

■効能・効果

単純性下痢の予防・治療

■包装

100g×10包(アルミ袋・化粧箱)
 1kg×20包(アルミ袋)
 20kg(クラフト袋)

■共済薬価収載

※使用上の注意

本剤は湿気が多い場所、温度の高い場所並びに直射日光を避けて保存して下さい。抗菌性物質との併用は避けて下さい。

■哺乳子豚の単純性下痢症に対する動物用ビオスリーの効果

群馬県内において発生した哺乳子豚の単純性下痢症に、動物用ビオスリーを投与し効果を得た。

平成7年7月 S農場

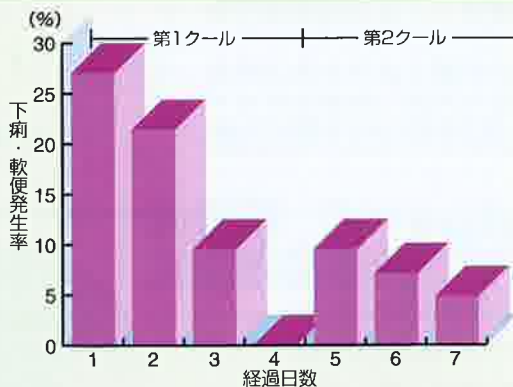
猛暑による母豚の乳質変化が下痢を誘発したと思われる哺乳子豚『4腹由来子豚42頭(10日齢)』に下痢発生の有無にかかわらず動物用ビオスリーを投与し下記の結果を得た。

〈治療法〉

	投与量	投与方法	投与期間
動物用ビオスリー	3g/3回/日/頭	人工乳又は飲水に懸濁	7日間

〈結果〉

経過 日数	下痢発生 頭数(%)
1	11(26.2)
2	9(21.4)
3	4(9.5)
4	0(0)
5	4(9.5)
6	3(7.1)
7	2(4.8)



動物用ビオスリー投与3日(第1クール)で激しい下痢は改善されたが、投与5日以降(第2クール)再発が見られた。しかし、投与期間を7日間にすることでほぼ普通便に回復し新たな下痢の発生は見られなかった。

(金井 久、渡部知宣:畜産の研究、第50巻、第1号 83-87 (1996) より抜粋)

製造販売元



東亜薬品工業株式会社

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚2-1-11

TEL 03(3375)0511(代)

販売店